

# 福祉・介護のつばさ事業～「アジア健康構想」に基づく外国人材還流の創出～

## 佐久市の状況



- ◇佐久市では、市内従業者の分野別割合において、近年「医療・福祉分野」のウェイトが顕著に増加（従事者数が多い「製造業」は▲7.3%、「卸売・小売業」は▲9.1%に対し、「医療・福祉業」は22.7%増）
- ◇このような情勢や国の施策の動向を踏まえると、「医療・福祉」はまち・ひと・しごとの創生上、特に注力すべき分野
- ◇福祉・介護分野は、高齢化（サービス受給者の増加）、少子化（担い手不足）の影響が大きく、喫緊の課題（H37(2025)年度における長野県の介護人材充足率は84.8% ⇒市民の安心に影響）

## これまでの経過



- H30(2018).6.18～7.2 介護人材確保・定着に関するアンケートの実施（回答数：108/170 事業所）
- H30(2018).8～9 佐久市域内の介護事業所へのヒアリングの実施
- H30(2018).11.14 「介護事業に係る意見交換会」の開催（参加数：70 法人、94 名）

## アジア健康構想



- ◇急速に進むアジア諸国の高齢化に対応したUHCと健康長寿社会を実現し、持続的な経済成長が可能なアジアを創造する構想
- ◇日本で介護を学ぶアジアの人材を増やすとともに、日本の介護事業者のアジアへの展開や相手国自らが介護事業を興すことを支援することにより、日本で学んだ人材が自国等へ戻った際の職場を創出し、アジア全体での人材育成と産業振興の好循環の形成を目指すもの

## 保健・医療のつばさ事業



- ◇保健・医療分野における「健康長寿」を生かした保健・医療サービス及び関連機器の国際展開に係る取組として、H28(2016)年度から実施
- ◇福祉・介護分野と意を同じくするものであることから、当該事業で培ったノウハウを本事業においても活用

## 「福祉・介護のつばさ事業」における取組

佐久地域の中核産業である「福祉・介護」産業の持続的な発展のため、「アジア健康構想」に基づき事業を展開します。

### 介護人材還流の創出

「アジア健康構想」に基づき、東南アジア諸国での介護サービス提供を支える人材を育成するとともに、民間事業者の海外展開により帰国後の職場を創出する循環型の仕組みを整備

- ・福祉・介護のつばさ事業連絡会議(仮称)の創設
- ・外国人生活相談窓口の運営
- ・外国語生活ガイドブックの作成
- ・通勤環境の整備
- ・異文化・受入れ制度に係る研修



サービス産業の担い手確保、新たな市場の獲得

### ものづくり分野における産業振興

担い手の減少を補うためのICTの役割が高まる中、産学官連携によりシーズとニーズのマッチングを図り、地域包括ケアの様々なステージに要する新たな製品や技術を開発

- ・シーズとニーズのマッチングの場の創出
- ・SOICと連携した事業展開



ものづくり産業の収益力の向上

### 地域住民の行動変容の促進

これまで培ってきた地域住民の予防・健康意識を継続して未来につなげるよう、地域住民の予防・健康づくりに関する事業を実施

- ・各種講座やイベントの実施
- ・地域包括ケアシステムに基づく質の高い取組の国内外への発信



海外市場での福祉・介護産業の付加価値向上

- ◇佐久地域の福祉・介護産業を世界に羽ばたく産業へと昇華
- ◇「保健・医療のつばさ事業」との両翼により、佐久地域のみならず東南アジア諸国での急速に進む高齢化に対応した健康長寿社会と持続的な経済成長をも実現